

部

報



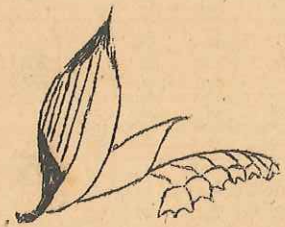
S 26.10

創刊號

青山學院排球部

目次

一、バレーブ面観	植原朝茂ニル、河野わふアイト	五
二、会計報告	鈴木秀明三、私とバレーホール	菊地武昭夫
三、昭和二十六年度バレー部経過報告	四、土、我スポーツ観	吉岡 茂夫
四、宇屋和子インタビュー	五、女子リーグ戦を返り見て	六
五、バの字の試合	海波 巖ハ、十三、私のバレー観	加藤道夫至
六、思いつくまじに	徳江三之助十、十四、OB名簿録	三
七、シーズンを終えて(座談会)	土	
八、筆の進むまじに	秋山貞雄至	



バレー部『回顧』

福原朝茂

学院バレー部の創設は確か私が専門部に入学する一年前の事であつたと思ふ。そしてその創設者はバレーの発祥地広島県出身の田尾先輩であつた。同先輩は熱烈なバレー愛好家で殆んど経験のない友人を集めて出陣した。然し、同先輩のたゆまざる努力と強引な性格は僅か短期間に無から多くの選手を作り上げたのである。私が入部したのはその翌年で秋のリーグが始まる頃であつた。

当時は関東高専の二部に加盟していたが、田尾主持の下に全員奮闘し、四勝一敗の好成績を以て二位となり、一位明学と共に一部に昇格された。然し翌年創設者にしてチームの大黒柱であつた田尾先輩を始め、加藤(哲)小長井、原田の諸先輩を送り悪戦苦闘したが、吉田主持の超人的な活躍によりかろうじて一部に踏みこまされた。

続く二十四年度に主持となつた小生の時、従来の高専リーグは

四の /

排止され、吾校は関東大学のオ三部に加盟したのである。吉田先輩の卒業により攻撃皆無の状態に陥り、遠征部の維持は不可能であると思つた矢先、幸運の女神は救の手を下した。即ちこの年に高橋、南川、松岡の諸君の入学をみ、漸くチームらしきものを編成したのである。

然し何と云つてもバレー部が本當に對外的に認められるようになったのはその次の年である。即ち其の年には秋山、沢川、上栗野、阿佐、加藤、海波、菊池の有能なる諸君を迎えた事である。この飛躍的な進歩は断然他のチームを圧し、九勝一敗の優秀な成績を以て優勝し、更に難關と思はれていた二部へも燃々昇格したのである。三部が設立されてから既に五シーズンであるが、二部へ昇格し得たのは吾校だけである。又二部における吾校の活躍は一シーズン毎に進歩し、多にダイウホーを振りかざして来

た。

本手も野老山、志江、原村の諸君の入部により一層充実して来たが、私の最も感謝しているのは、たゞそれ以下の力持となつて燃々この内部的統一に努力した小沢、土谷、鈴木、二郷の諸君である。

以上が大體吾部の歩んで来た道の道であるが、その間幾多の喜怒哀楽の起出もあつた。この悪い出を深く胸に秘めて私は学窓を去つて行くのであるが、殊る諸君の一層の努力により技術的にも精神的にも充実して行く事を心から祈っています。

会計報告

鈴木秀明

昭和二十六年前期(九月三十日迄)も無事に終了したので、会計係として三大行事即ち二部リーグ戦合宿東北学院との定期戦を會計(財政)の面から検討してみようと思ひます。

先づリーグ戦の事ですが、具体的例をあげれば試合が浜松町コートで行われたので渋谷からの交通費を、本来の予算の中から出さねばならないのですが、ボール紙、ニードル、ポンプ代その他の必需品に予算が充たされたので不足し、為に部員諸君に負擔させましたことを会計係として誠に申訳なく思つて居ります。

そこで来年度のリーグ戦には交通費は凡て部で負擔して行きたい

と思ひますが、何分現在の状態では、学友会より六万六千円、部費として八千四百円が入るのみです。から来年度の予算会議にはより多くの予算を獲得するために更に頑張る積りです。

次に八月の十七日から二十五日迄埼玉県の川越市立オ一小学校で行われた夏季合宿について述べたいと思ひます。費用は部員負擔として二万円更に部費の中から二万円を支出しました。部員諸君もお愛付きのことと存じますが、真夏の焼けつく様な太陽の下で朝の九時から夜の七時半迄午睡として一時間振るのみで猛烈な練習を行った諸君が体力回復には縁遠いような食事をして、不平ももたらさず、食べたことに対して部の台所を預る者として、もつと營養のあるものを、もつと豊富に食べさせて上げ度いと心に念じながら、それが出来なかつた事は残念でした。而しながら、予算の關係上それ以上は出来なかつたことを許容して貰ふと思ひます。

最後に東北遠征に就いて述べてみます。学校より遠征資金として一万一千円を貰ひ、部員負擔として一万二千四百円合計二万三千四百円を支出して居ります。部員負擔について疑問を抱かれる方がおられると思ひますが、それは当然です。勿論学校の代表として行くのですから費用は学校で全部負担すべきです。而し学校からは補助金として一万一千円を貰ひ、更に過ぎず残りの費用は部で負担すべきです。が前述の如き予算の状態では如何ともし難く残りの費用は各自負擔として部員の皆様に御迷惑を掛けられた事案です。

以上述べましたように吾等青山学院バレー部はこの少い予算を効果的に活用して来春の一部進出を目指しているのではありません。色々不備な点もございませうが先輩並に部員各位におかれましては、猶一層の御協力をお願い致します。

バレーボール部 二十六年年度経過報告

三月四日(日) 部員総会

五月五日(土) 春季リーグ戦 六月三日(日)まで(浜松町コート)

五月十九日(土)

東大 2
21 18 21
12 21 16
1 青山

五月廿日(日)

東大 2
21 21
17 15
0 青山

五月二十六日(土)

青山 2
21 21
10 9
0 工大

五月二十七日(日)

工大 2
21 21 18
16 8 21
1 青山

六月二日(土)

法大 2
21 21
18 9
0 青山

六月三日(日)

法大 2
21 21
11 15
0 青山

五月六日(日)
青山 2
21 18 21
18 21 13
1 一ツ橋大

五月十二日(土)
青山 2
21 21
9 11
0 一ツ橋大

五月十三日(日)
中大 2
21 21 20
12 14 23
1 青山

中大 2
21 18 21
18 21 12
1 青山

成績

- ① 中大十勝 ② 法大八勝二敗 ③ 東大六勝四敗
- ④ 工大三勝七敗 ⑤ 恵泉三勝七敗 ⑥ 一ツ橋大十敗

六月九・十・十六・十七日 お茶の水大学コート

女子大学リーグ戦

日本女子体育大学 2-0 青山(女)
 共立薬科大学 2-1 青山(女)
 才茶ノ水大学 2-0 青山(女)
 東京女子大 2-0 青山(女)
 学習院大学 2-0 青山(女)

- ⑦ 日本女子体育大五勝 ⑧ 才茶ノ水大四勝一敗
- ⑨ 東京女子大三勝二敗 ⑩ 学習院大学二勝三敗
- ⑪ 共立薬科大一勝四敗 ⑫ 青山学院五敗

六月十三日(水) 関東学院大学コート

青山・明治・関東 三学院定期戦

青山 2
21 21 18
13 11 21
1 明治

関東 2
21 21 18
8 11 21
0 明治

六月二十三日(土) 部員慰労会(短大)

- ① 青山全勝 ② 関東一勝一敗 ③ 明治全敗

六月二十四日(日) 本学コート

水産商高オープン戦

青山 2
21 21 19
16 11 21
1 水産商

六月二十七日(水) 十文字高女コート(女子バレー)

十文字高女 2
21 21
12 17
0 青山(女)

六月三十日(土) 本学院コート

青山・関東・フェリス・恵泉四学院定期戦

青山(女) 2
21 17 21
14 21 9
1 関東

青山(女) 2
21 21
16 12
0 フェリス

青山(女) 2
21 21
11 4
0 恵泉

順位

- ① 青山(女)全勝 ② 関東二勝一敗
- ③ フェリス一勝二敗 ④ 恵泉全敗

七月十八日(水) 河口湖ハイキング

八月十七日(金) — 八月二十五日(日)

夏期合宿練習 (埼玉県川口市第一小学校内)
米立川総合体育会合同合宿

九月五日 — 七日 東北学院大学コート

第二回青山・東北学院大学定期戦

青山 3
21 21 23
16 14 21
0 東北

九月十五日(土) — 十月十四日(日)

秋季リーグ戦 (田原コロシアム及浜松町コート)

九月十五日(土)

東大 2
21 21
19 7
0 青山

九月十六日(日)

東大 2
21 15 21
19 21 13
1 青山

九月二十二日(土)

中大 2
21 21
18 14
0 青山

九月二十三日(日)

中大 2
21 21
18 13
0 青山

九月二十九日(土)

法大 2
21 17 21
16 21 19
1 青山

九月三十日(日)

青山 2
21 21
9 16
0 法大

十月六日(土)

青山 2
21 21
17 12
0 工大

十月七日(日)

青山 2
21 19 21
12 21 17
1 工大

十月十三日(土)

青山 2
21 19 21
15 21 13
1 一ツ橋大

十月十四日(日)

青山 2
21 21 11
12 17 21
1 一ツ橋大

順位

- ① 中大十勝 ② 東大六勝四敗 ③ 法大、青山五勝
- 五敗 ④ 一ツ橋三勝八敗 ⑤ 工大二勝九敗

十月二十四日(水) 本学コート

卒業生送別試合 (福原・高橋兄送別)

ハンサムズ

(三、四年チーム) 2
13 21 12 21 15
21 18 21 15 21
キャンデーボーイズ
(一、二年チーム)

十月二十八日(日) 昇仙坂ハイキング

十一月十六日(金) 明学コート

三学院定期戦 (明学兼収)

明学 3
24 21 21 13 13
22 17 14 21 21
2 青山

十一月二十一日(水) 部員総会

十一月二十三日(金) 東京女子大コート

女子大記念祭招待試合

東京女子大 2
21 14 21
11 21 15
1 青山

以上

守屋和子インタアービュー

家々に灯がともって、師走の風も身にしみパスするボールも漸く見えなくなつた午後五時、私は守屋さんの練習の余暇をみて、インタビューをした。彼女はこの寒さにも羊袖シャツにシヨートパンツと云う涼々しいでたちであつた。私は先づ試合についての心構えをお尋ねした。「私は何と言ってもフェアプレイで行く事が第一でそして次に勝つ事だと思ひます」と何の逆みもなくはつきり答へられた。私はもうインタビューの目的を果したように感じた。この精神の心構えこそスポーツする者にとっての金科玉條なのである。「では試合に負けた場合には、全力を盡してやうて負けても悔いありません。そして後で敗因について大学の先輩に批判して貰ふ、又私達も考えてみようと思ひます」「貴女がバレー生活を通じて感じた悲しみについては」「楽しい事許りで悲しい事なんかちつともありませんわ」と瞳を輝して答へられた。

如何にも楽しそうに。バレーが三度の御飯より好きだとまう彼女にとつては宜なるかなと頷かれた。もつと好きになれば目方も少し減りますよ、おつとこれは冗談。「貴女は学窓を兼立ってからバレーで得た体験を社会で如何に生かしますか」「社会は人間の集りであり結局部を大きくしたものにはすぎませんからバレーをインジョイした後に社会に出ても大いに楽しくやりたいと思ひます」と自信満々に答えた。「最後に後輩に對する貴女の希望は」私ほそれが一番重視するので」と前置きして真面目な面持ちで「大層と短大とが今より否今以上に仲よく双方のバレー部の発展のために学生の本分を忘れる事なくやうて行つて貰きたいのです」と答へられた。正に優しい姉の如い弟妹に對する如くである。學生の本分を忘れることなく縁遠し強く言われた。彼女の面の頬は氣のせいのか、紅潮しているのが感じられた。この人を主將においてこそ短大バレー部は微動だにしないのだ。私は話が終つてやつと腹が身にしみていろいろの氣付いた。私も守屋さんと話に付り込まれて、つい寒さを忘れていたのだ。皆帰り支度中に忙しひので早速お礼を述べて家路に就いた。守屋さんのそして短大バレー部諸嬢の前途に幸多かれと祈りながら

一九五一年十二月三日記

バの字の試合

商・二・C 海波 殿

海波君「応援に来ないか」と先輩安藤氏に誘はれて入るとはなしに、毎試合に出場して以来早や数年は夢の如く過ぎた。勝つた時の喜び負けた時の残念さ、友が病気で試合に出場出来ぬ時のさびしさ皆と共に練習し闘い人の喜びを自分の喜びとし自分の嬉しさを人に分ち合う精神と忍耐が数多くの試合を通じて成長されて来た。

出發からの思い出は楽しさの中にも悲しさが有つて心の中に常に残り残めてくれる。これらの事を思い出すと全部なつかし、走馬燈のようにぐるぐるともまぐるしく頭の中で廻っている。

初めての試合の事として見た事も無い事もないこの不思議な珍運動の試合に出場した僕を思い出すと腹を抱えて笑いたくなる。確かにあの頃は靴を買つた大金持でもなしそうかと云つて素足で歩いたら身体髪膚をキズつけると思つて毎日日本の高下駄を履いて、カランコロンと何処までも歩いて銀座でも歩いたものだった。そのカランをばいて青山高までコロンと出て強からでもない可愛らしい声をばり上げて応援した。その頃は未だ「オイヤシ」がなかったと思う。その応援がりに感してか又は野球の選手だった故か、

とうとううみっぱり出された。

先づ安藤氏主審にタイムを要求して僕はやらズボンのスソをまくり上げ下駄をぬいて素足になりシャツをとつて裸になった。それは応援に思つて一つしかなかつたされいでもない一丁羅を着て行つたからで泥だらけになると母ちゃんに恐れられると思つたからであらう。

「ピッ」と主審のホイッスルに我は我を忘れて御々の如く猛然として面足を大地にしっかりとつけて、雨が降つても擔が降つても動かない恰好して中衛左で構えた。その頃は僕は素外背は高かつたから、前衛に石黒、同部、石山氏、中衛に安藤氏、僕、後衛は忘れた。これらの人々を要して堂々たる布陣を引いたのだ。「来た」と思つた瞬間、僕の両手は固く握りしめられて全身の力を右の如く落下してくる球へ向けて下から上へとながつたのだ。球は願ひたがわずにネットを越して相手方へブーンととんで行つた。その時に始めて球は三度だけ異つた人が懸つて相手方へ返すという事を教えてもらった。

その頃は攻撃して球を打つということではなく只返すということ一杯だったのだ。オースターブは誰一人としてコートの中へ入れた人はなくオニでカラウじて入れたものだった。それを観戦していた僕は二回たたくことが出来て二回で相手のコートへ入れれば

いいのだと理つたものだ。だからオースターブは、足をふんばり、球を高く上げて右手でカ一杯ひっぱたいたら球は敵味方監視の中をホームランの如くどび行き、無着陸で離れた崖下へ修まうてしまった。リヤはやや考えて見ると痛極まりない何しろこうやるのがバレーであり又礼儀であると思つたからである。

然し戦はこの種な善戦に反して十五中八回だけ慶応高に勝つたのだ。負けても勝つても僕は只嬉しかつた。何故なら試合が出来たのだ。僕はさうやら、今バレーのバの字をやっている。昔の階級教室の裏の銀杏の木と講堂の間にネットらしき物をつけて思い出すと、大変にはづかしい。

初めての時は何も知らない赤子ヤンみたいな所から多くの知識を与へて性質を伸ばはしてくれた諸先輩を始め叔父の雨傘を良く見てくれる南川主将小沢学連長、土屋、マネージャー他諸兄弟に感謝して筆を置きます。



” 思いつくまゝに ”

徳江三之助

最近特に今年に入ってからバレーボールの普及発展はすばらしいもので秋の団体にも最高の参加人員を集めたところ華は僕達バレーを志すものに取って大へん嬉しいことである。

バレーがバレーをするにも又見る側に於てもポピュラーなことが実証されたわけである。

バレーに全然未知の人がバレーの試合を見た時、彼等には両者の技術、細いバレーを探知することはできない。ましてや選手間の細かいかけ引き監督の動向などは知るべくもない。その時彼等に最も強く感じられるのはそれだけのチームから受ける感じ即ちそのチームの持つチームカラーのみではないだろうか、それは特に年少者や女性に於てはこの感が深い、甚しきに至ってはユニホームの色のみで決定してしまう。

所で僕達青山学院のチームカラーはどんなものであろうか？自由な練習をし、バレーを楽しんでいると評された僕達からは決して明治の如き型のチームが生まれる程がない、といって個人技の卓越している慶応の型とも思われない、強いて一部リーグの学校

シーズンを終えて

出席者	Captain	Mitsunobu
	会計	Suzuki
	学委	Ogawa
	司会	Tanaka

此 Shakespeare garden の席で

師生の凡も肌寒い午後のひとときキャプテン、学連委員、会計係と私マナーゲヤリの四人席を囲んでいろいろと話し合いました。

T. 先づ学連委員の小沢君、学連委員の仕事とい、ますか、委員会の活動ともいいますかそんな所からお話し願いたいのですか

O. まあ本委員会は、春秋リーグ戦の運営に關する一切を皆のがや一カ仕事です。又明年に於ては春早く行われる一統的学連大会、これは全日本学連の第一番目の動きなのですが、こんなことを本委員会がやって行くのです。

T. 学連委員のみを他校の状況などをお話し下さい。

O. 他校より少くとも各校は人間のまとまりが出来ているのではないのでしょうか、それは試合中のチームワークなどのこと

に例をとればさしめ同じミッシェンスクールの立教という所がとにかく二部に於てたゞ一つの新制大学としての青山はあらゆる私立の特色を併せ他校には見られない若さと新しさがある。その反面、全然、抑しがなく凄味の見られないことは青山の特色でもあり又最も大きな弱点の一つである。又精神力の弱いことも大きな欠点だ。

試合中ピントに迫り込まれる、がっちり行けよ、というキャプテンの声、みんなも、おう、と答える、しかしその反面頭の中では、あ、もうこの試合はいけない敗けるのではないだろうか、と考えている。そこから強い闘志も反響力も生れはしない。ということはナイーンの中に精神的にある程度まで完成された人が少いということである。

しかし未完成の魅力というものは大きく人の心を獲えるものである。又弱者の肩を持つ江が子気質は誰にでもあるものだ。リーグ中青山の声援が多いというのも意外こんな所に起因しているのではあるまいかだが試合中いつも白い歯を出して笑いミ入る度にあるいは味方が得点した時でさえも誰かがあやまっているのが青山だそうである、實際よく笑いよくあやまる様だ。

青山がこれ以上進む為には青山の特色というものをより以上にのびせねばならない。若さの故に未来への希望を持ち新しさが故に将来への発展を望むがバレー部の多幸であることを心から祈って筆を置く、二十六年十月三日記

も問題になつてきますがまあそれは別として貴校の問題として本当に他チームには見られぬ融和性をもって思つて居ります。

T. 私もそう思います。

M. 学連委員は他校の内部的状況を少しでも探知して欲しいと思つたが、

O. 二部の委員は皆良い人ばかりで何かくすことなく自校の様子を話してくれるのでその点ありがたいですね。

M. それでは来春入部の諸状況についてはどうでしょうか。

O. 中央は相当、又東大も大分骨を折っているようです。吾々も Captain が大分張切つて居られるようですからどうしても来年は一部へ行きたいものですね、まあ私と致しまして委員会の時にはよく自分役目をして各校が状況をみることに盡したいと思つております。

M. 各校は先輩も少いのでその反面選手が伸びくと自己をのびし動けるという有利な点しかし又これは一面不利な点でもありますか、こういうものをもって居りますがその欠点もよく知る必要があると思つた。

O. 先輩が少いからその代り他校よりリーグ中行くべき仕事も、いろいろあると思つた、まあそんな所をよく部員諸君も知

って欲しいと思いますね

M. 試合については *Hard Play* ということが、もはやそんな同

題は論議の余地はないと思います。普通の人間ならば何はともかく勝つことですね。各校の試合振りをみますと非常に波がある事それは結局自信をもてぬという事、更につき進めば練習が足りないという事、こうなりますね

O. 学連のうわさでは青山は若い有望選手が多いから今後 伸びるという専らの評判ですが

M. 勿論頑張りますよ、うんと努力してね、私は効用が少く悦労働

カチ役にバレーをたえれば私は後は后看をとりますね、結局いくつ版がよくても努力をしなければ駄目です。たとえサーブをうつにしても入る事、勿論これは大切ですが如何にしたら入るようになるか、そこまで努力して行くその精神こそ真に大切だと思います。天才より私は努力者を尊敬し又価値ある人だと思います。この点を部員諸君もよく考えて欲しいと思います。

O. 部活動をやって行く上には上下関係はあっても当然だと思ふ、そこにまとまりが出来、部が統一して行く事が出来るのではないかと思います。 *Captain* どうでしょうか。

M. 社会生活の縮少ともいえるバレーに於ては特にそうだと思います。

ます、学生入ホーツである以上どこまでも強くなり学校の為に戦いたいと思います。

T. 技術の面のお話まだ色々あると思いますがこれはこの辺にして、今度は鈴木君一つ財政面からの苦心談をお聞かせ願いたいのですが、では鈴木君資金の運用について又は獲得の方法についてどうぞ

S. まあ部費は御存知のように少いので先づいから御座たいのですが、やはり君々が努力して行かねば駄目だと思ひますね何かもようし物をやる、こんなこともよいのではないのでしょうか、又部費を定期的に収めてくれなければ弱ります、明年の合宿などもなるべく安くやりたいと色々考えて居ります。目下目立をしろで居りますが要は各人の努力によって利益を得、それを運用して行きたいと思ひます。

T. キヤプテン、学連委員、会計のそれぞれの内部的なお話はまだまだつきぬこと、思ひますが、この辺で一つ話題を変えて短大バレー部に転じて話して欲しいのですが南川さんとかどうですか。

M. 結局さんとかをしているとよく申せないのが客観的立場の人から色々話されそれにお答えて行きたいと思ひます。

O. 短大によって多分に弱体化したのではないかと、いううわさが

外 へ

あります

M. 各人の心持ち次第です、男女が集まれば、自分のよき所を示

さんとする、ですから双方にとってよきことだと思ひます。弱体化したというのは偏見だと思ひます。

S.O. 短大の生徒はだるんではないと思ひます、大学の生徒が一心になつてコナチしようとしている熱をば女子の方々は一応反省して欲しい事だと思ひます。

S. 具体的にいうと試合の時選手だけしか来ない又練習に来る人もあまり、練習開始時間もだら／＼である、こんなところキヤプテンどう思ひます。

M. 家庭的にたよりに育つたお嬢さま方と吾々の居るスポーツマンシップとは異なるものからある程度は仕方ないと思ひます、がしかし何事をするにも節度がなければだめです、ね

まあ短大はリクリエーション的スポーツでありますね、家庭へ入つても、節度がなければだめなように、短大コナチをやつた事としてそれは同校にいる以上当然のことだと思ひますが己れの本分を忘れないように自らの練習を決して忘れては困る、私はこの点を心配して居ります。

M. 所方のかんとく、キヤプテンをやっている以上、レギュラー以外の人がコナチをしてもらつて多いに頑張るのだなあ、

S.T. いやどうも……コナチして欲しい位です。

T. まあ今後とも仲よく勵まし合ひ、努力し合つて行きたいものと思ひます。日もかげつてしまつたので今日はこの辺でどうもいろいろと有難うございました。

M. H. A. V. C
December 5th
at Shakespeare garden

「筆の進むまゝ」

秋山貞雄

およそバレーボール程面白いスポーツはなからうと何處か思つてプレーするのでも見るのでも暇くのも面白さはつきない、もし金と暇さえあれば私は一生バレーを果してみたいものだ、今の私は学校を利用してバレーをやりに来ているといつても間違はない、こんなにも病み付きになつた者も／＼の始りは今思ひ返して見ると実にゆかいな会話からだ。たしかに中教四年(三二年)の六月の上旬と思ふ放課後川へ泳ぎに行く途中バレー部の親しい友達から「バレーやってくれないか」と

この言葉が私の運命のサイは振られた。その返事がすごい「アタックさせる人ならやる」としかしこの一句が今のような大器（お読みになる方よ大器と自分は思ってた）から怒らないでくれにしたらんどう。この時から正式に入部したんだけどその前にも一寸やった事がある。話は前後するけど終戦の翌年下度生意気盛りの頃を誘われてやり始めて三三日練習してる時「やっぱ細過ぎてだめだ」なんて上級生の話してるのが聞えた、くやしくて翌日すぐやめてしまった。部へ入ってから先づやった練習がアタックだ。パスも出来ないのに左手でタックをやって、その時はすごいタックだ。思ってたけど誰もほめてくれなかったのをみるとやっぱり校内大会級のタックだったんだらう。初めて試合は其年の八月の県の大会だった。不幸一軍のFRからシャットアウトされ二軍のFLをやった主戦アタッカーである。その時のポイントな二点だった。夢我夢中で三セット過ぎてしまった。二セット目か三セット、タック？したボールが又自分の所へ帰って来た、それをおさへると又帰って来た、それを何とか相手のコートへ入れたのがやっと。ポイントになったこともあった。これもこの試合中貴重な二点のポイントの中の一つだ。その年の団体は手選で破れ決勝出場とはいえ長蛇を連したくやしさを一ぱいだった。次の年は必勝を期しての練習が実を結びみごと優勝出来ず暗の団体出場で

九洲へ行くこと決った。この時はゲームセットと共に大つづの決を流して泣いてしまった。唯うれしくて、大会は一回戦で破れどうも遠征はだめだなんて考えるようになった。その翌年が私の高校時代最後の学年八人もの卒業生を送り出してしまった我々に優勝はとて不可能だった。しかし高校時代にもオールド山梨で二回ばかり果外試合へ出場出来たのは良い思い出となった。山梨大会（高松の山梨対静岡）は三度目遠征で有名な身延へ行った。話は又前後してしまふけど私のバレーでの育ての親が前田豊氏だ。年に三四回合宿その他のコートに乗って私はかなりよく唸鳴られたものだ。他校を呼んで来ての飢打の時など一寸変な事をする「デクのボーッ」声と共に私の尻をビシリ、だけ彼ののおかげで二、三の学校に知れ誘はれもした。でも今学院でバレーの出来るのはうれしい。誰も知らない古い思い出は止めよう。つい先日入学したと思ってるのもう二年。三部の時はあまり相手がいないので面白いことは何もなかった。入学の時今のコートが縦にあった時プールの中で練習を見ていた下手なような気がして入るのやめようかと思つた。その場を引き上げてサッカートの練習を見ても南川氏に入部を誘はれて入ってしまった学院でのバレー生活が始まった。二部への入更へ戦の時初めて初代監督？吉田氏が見えた。竹早の体育館での二戦勝事が出来、来るシーズンの二部が果しみに

何事もフアイト

なり胸が高呼した。二部へ入っての二シーズン負け数は分り目についた。三シーズン目にやっと自分の星とこぎつけた。この時の対法大戦の時前日の雪辱とマネジヤの小沢さんのバースデーへのプレゼントのため全員よく頑張りニ対零と破った時この日前夜早く床に入り体を休めたのが良く私の調子も上上、思い切りとんでクイッククッパそれが又ほとんどポイント一セットが終った瞬間目の前がぼろとすすんで来二セットが終った時など話をすると涙が落ちそうに話も出来ず唯小沢さんと握手しただけ小沢さんもそんな気持ちやあなかつたかな。この日あれ程私が張切った理由がも一つあったけどこれは知一人のことなのでそつと胸にしまつておく。

青山学院大学バレーコートで彼女は初冬の風が身にしみる夕暮の迫つたのも忘れ何時もシヨートパンツのたくましいいでたちでボールを追つて頑張っているのと云うと職業的な強い韻律を念ひで聞えるがトンデモハツパン彼女はれつとした文学少女事攻はアメリカ文学だそう。支那華表の真前彼女は吉澤寺の比叵舎で三人兄弟の末子としてトギの声を上げた。「末子いやなくてよ私くし長女ですわ」と云つた様なタイプの持主。彼女が成長期に當時の政策に束縛されてか「メートルミニのかわい、背丈、体重はみな孫の御想像にお任せ致します」心配する程なっているとは思はないが、この可憐なインテリ女性もユニホーム姿になれば、文豪ど吹く尻と短大唯一のフアイトウーマン「何事をするにもフアイトかなければだめです特にバツクでカンジンネ」全く技量の真をフアイトによっておぎなっている様な人だ。先日行われた対京

京女子大の一戦でも彼女はこの心理を十二分に發揮し目の覚める様な好守亦サーブ率十割の新記録を樹立した。短大にとって重宝な彼女も来春卒業を業立たねばならぬ運命におかれてゐる。バレーに關係するもの否短大に籍を置く人々はこぞつて離別を悲しむであらう。願はくは彼女の前途に幸多かれと祈りながら

私とバレーボール

菊地武昭

排球・バレーボールと言ふ言葉は知つては居たが排球とは何の様にしてプレーをする物であるか、又排球とバレーボールが同一の物であると言ふ事を私が知つたのは御馳しいながら私が高校二年生の初夏であった。そして私が始めてバレーをした動機というのは私の家の近所にバレーの好きな人が居り『明後日C商業の運動場で区のパレーボール大会(実業団・クラブチームも出場しました)があるが人員が足りないのでも君もやつてくれないか』と言はれ、生れて始めてボールを手にし、たった二日の練習、練習と言へば聞えがよいが、パスの型とボールが来たら上へあげることにこの二つを教はつただけで区の大大会に出たのである(ハズ)その心

藏たるや今考えても我ながら感心する。しかし私も私の如きたつた二日しか経験のない連中が三人も居た。チームが一勝したためには感心したというより驚いた。これが私のバレーボールの第一歩である。しかし当時は別段面白いともやつて見ようとも思はなかつた。その後あまり色々のスポーツをして無理をした為か身体を悪くし一年半の間は静養という形で何も運動をすることか出来ずに居りました。大学に入った当時バレー部の練習を見て(最も他の運動部が練習をしていなかったか)バレー部の練習を見て居たので(。何と貧弱な部であらうと思つて見て居ましたが高等師時代の学友K君の進めで何となく入部する氣になり、或日F先輩に紹介された(K君は今も我親友でありK君の進めを今もは感謝いたして居ります)そして其の日から練習に引き出された。最も今思えて見れば当時ボール拾いが居なかつた為であらう。しかし一月半ぐらいの練習で私の病は再発してしまい半手以上も練習をしなかつた。しかし再び練習に出られるようになったから一年と一寸の今日今の様な身体になつたのもひとえにバレー部の皆様の理解ある御指導のおかげと心から感謝致して居ります。下の横好きと申しますが今迄色々のスポーツをして来ましたが、私にとつてバレー程面白いスポーツは有りません。これ以上書くと余り長くなりますのでこの辺で私が排球をして

バレーボールとは如何なる物かと云う事を知つた動機から入部までとして今日までのことを簡単に記しました。

我がスポーツ観

吉岡茂

今出バレー部に於て機関紙の発刊を見ることは色々の意味に於て嬉しいことである、遠く戦争直前オリンピックを日本で開く順番が廻つて来た時、せずともがなの戦争を仕かけたばかりに主権を失つたことは勿論、世界中の仲間はずれになり参加すら出来なくなつてしまつた、あの頃吾々は「ハコウ一字」という言葉を口ぐせにして、言葉そのものは世界中眷属という事で平和主義の極致を云ひ現わしてゐると云えるが、併し吾々の意味してゐたのは、そんな生やさしいものではなく世界を征服して支配者たんとした「ハコウ一字」だからまことに物凄いわけのものだつた。自然吾々のものを他國に押しつける必要から、他國のものを極度に嫌つた。この為か一番ひどい目に会つたのがスポーツだつた。スポーツ精神は、西洋に起り吾々には本當の意味が長く理解されていながつた、殊に軍人は甚だしく、こん棒で球をとばす

ような業くれでは、人殺しの役に立たないとはかり柔術や剣道をスポーツに置きかえてしまつた。日本のスポーツが戦争でこじやうひどい目にあつたのは運動競技の世界に人物が居居してゐたことに由来してゐたためのものでこの社会でもどなたが絶対に起らないとは、あり得ないことであるが、日本の運動界程この多岐所はあまりないようだ。それは权威をもつて頭を押さえて得るだけの人物がないところから起るのであつて口先でフェアプレーをい、ながら片寄つて板垣曲りである様だ。明治以来競技団体は総裁などの名誉職に好んで名家を儲け出す慣例になつてゐるのはスポーツマンが存外頭がなく庶民の有難い事によるのだから一面宮城でないとドン栗揃いのこの世界では物のおさまりがつかない事によるのだ。たらしい、戦後宮城の価値が下落した今日でも宮城を擔ぎたがる傾きがあるのは「た」防止の護符として宮城を利用してゐるに違いない。又オリビツツ総会に何とか云う外交官が行つてヘルシンキで開かれる競技に日本の参加が許される様証合に行つたとか聞かそういう人物がスポーツ界を代表するのは大いにおかしいがこの社会に、代表に値する人がないと知つてゐるなら突えないことである。何時か事だつたか三原とか云う野球の人間が試合中に相手のチームの選手をパン政つた事件を新聞等で見たり聞いたりしたが大體

相手が妨害行為をしているのだからと野球協会の一ヶ年とかの
出場禁止は罰が苛酷だとか、三原辨護師を聞いている中になら
れた奴が悪い、なぐった奴が正しい者のような錯覚が起きる
送手の行為が規則に違反したかどうかを裁くものは審判者であ
つて競技者でない、この事件は非スポーツマン的であり実に人間
のものにケョット？、おかしな所があるのではないかと思はれる。
よく聞く言葉にスポーツマンにはあまり頭の長い奴はいないと
つたような事を聞くか、とに角人間である以上、人間の個性を
よく見定める必要があると思う、スポーツばかりの狭い視野が
りでなく広く見て、スポーツを通して人間育成に一步でも近
くことが大切である、頭の向題である。

種々な條件が前提されるのだが、一言に云えばまあ実力たる
うね
KA いや練習の実力を充分發揮してはあとい勝は(共立大)
可能だった。
K 兼観的見方かもしれないがチャンスが訪れなかったのだ。
◎では如何なる理由で、
T 個人的に練習量の差がはなはだしいだから底力と云うかれ
た力を望む事は出来ないのだ。
KA 前衛がヤンスを作るべき純好のボールをミスして相手にチヤ
ンスを与えるボールが多かつたね、守備陣は実力以上によく
ひろつたよ
T 前衛はセン細なプレイが多いから即ちコンビが特に重要だか
ら練習不足が大きくバクシした、これに対してバック等は極
端に云えば拙劣的だから過去の練習量でもボロが出なかつた
と云うところだね

女子リーグ戦を振り返り見て

女子短大を見て

出席者 (KA) 加藤 道夫 (K) 海渡 巖 (T) 徳江 三之助

◎秋季リーグ戦はもつと勝率を高める事が出来たと思われませんか？

K 試合の経験が不足だったよ、僕は練習も重要視するがそれよ
りマツナの体験を尊重する乱打ではだめだよ気がたまるむからさ
KA 経験が不足と云う事は練習が不充分と云うことだろう
T 至極がないということもその人の実力の中に入るのでよ
KA 試合の運命に変化がなく単純だよ、例えば祀に入ったボール

は流すコースが一定しているのだ、もつとも主力打者を八割
使うことは否定しないが、肉を切りして骨を切る”と云う
作戦を考へるべきだった。

下 決定的アタッカーが欲しいね

K 個人々々実力以上のある力を發揮したが学院の悪い伝統
の為チーム全体としてはかんばしくなかつたよ。

KA 前者はトスしなくてもよいボールをトスし相手に余裕を与え
ているツータッチより速い攻画はないからね、ダイレクトタ
ッチは別として

K 中、後衛の守備は案外よかったんだ、前衛の頭の向題が大き
くひびくね。

KA アタックのテンポが同一なのだ、時間差がなければ幅の攻画
もないコースも同じ盲人でもストップ出来るよ。

下 余裕がないんだよ、
K いや、頭だなく、三三度スト、フにぶつければアタックコース
を左右に振れば抜けること受けあいた？

KA コンビ不充分、これが致命傷だった、素質はもっているから
よけい残念だよ、

下 全体的な練習が不足だったからコンビなんかだめだよ、
KA シウボールをアタックに生かすパスがかんばしくなかつた

最近のボールを攻連にするパス
下 それよりもチャンスボールを生かしていないよ、
K 上つていたのかね、これもチャンスが訪れなかつた一つだよ

最近のボールを攻連にするパス
下 それよりもチャンスボールを生かしていないよ、
K 上つていたのかね、これもチャンスが訪れなかつた一つだよ

◎試合進行について

K 前半は同等について行くが後半から差が出来てくる
下 リーダーが欲しいね

KA 自信をもってやればよかったのだよ、試合の時だけでもね
K 相手のチームを研究し早く強弱を見見することだ、この点がお
もわしくなかつた

T 送手の少いのが頭痛の種だったろう、南川監督の手腕が發揮
出来なかつた一つの原因だね

KA ミスの連続が多く大量得点を許したこれはかけひきか下
手な証拠だね

◎リーグを見て教えられた点
KA 教えられた所はまあないね、ハアハアハア——

T 真面目であまり笑わない笑う余裕がないのだろう、
KA バレー部否青山を愛してもらいたい、個人的な事情がある
とも、

K 意気旺盛天を突くと云う気ハクが感心だ、苦痛なスケッチボールを
少いメンバーで最後までよくやつたよ、監督も大変だったろう、

◎個人的なプレーの批評

- 下. じみな松山さんのプレーは痛状だった。
- K. バックはよくやった純望のボールをおっかけてよく触ったハハハ、、、五百蔵さんがよくリードしたと思ふ美さ声をばり上げて。
- 下. 守屋さんが活躍するだろうと期待していたのだが、柳田さんをもっと練習させ使いたかった。
- K. 西さんはよくストツプやり地味な点を重ねていたが左手が候えないのがものたりない。そもく、彼女を球へ置いたのが悪い。
- KA. 西さんは上からはかりおさえようとしなくて横から行く巻き込みタッチを得るべきだ。幅が出るからね。
- K. 西さんのサーブはよいと思うか？
- KA. いや力のバランスがとれていないだから不安定だ。
- K. 守屋さんのサーブは入れれば強いが試合になると全然入らない。開兵式用だハハハ、、、
- 下. 守屋さんは気が小さいからためだトスはよくシボられて上手だ。ジャンケンも強いハハハ、、、
- KA. 彼女のサーブは腰の回転が速くてスウイングが遅いホジヤンブカがない。
- K. 細かいからね。
- 下. タテヤさんは身長が欲しいインサイドワークは一番だと思ふが。

「私のバレー観」

加藤道夫

戦後我國のバレーは急速に進歩発展し野球と同様に全国的に普及して来た。私はバレーを始めてから今年で三年になるが未だにバレーそのものの本質及び技術について何も解らない。球が浅いからといえは人前がよいが生来の愚鈍の故かもしれない。唯上級生はじめ部員諸兄のリードのもとに無我無中について来たというに過ぎないのである。しかしバレーをしていて感じたことを強いて述べるならばバレーは頭腦的、瞬間的プレーでありしかも緻密なスポーツであることである。其故にプレーを為す上に肉体的精神的ハンデキヤップを決して受け入れないのである。此事は秋のリーグ戦中実際に経験したのでありつくくバレーは難しいスポーツであるという事を知らされたのである。又如何なるスポーツも奥深く入れは入る程それと取組む者の上に大きな塊となつて覆被さつて来るのであるがバレーは老若男女誰にでも出来る様にその人には非常に広いのであるがその奥は反対に非常に狭いものであると云う事を感じるのである。

Mr. Kato

OB名簿録

- 昭和二十三年卒
 - 田尾 昭次 山口県小野田市西之浜町森川方 (小野市火か電所)
 - 加藤 哲也 中川区横町二ノ三鹿島建設株式会社建築部
 - 館 正義 三重県鈴鹿郡龜山町西町
 - 原田 純 武井野市吉祥寺二ノ四三(進駐軍クラブ)
 - 小長井 幸 横濱市神奈川区松本町七六
 - 安食 重義 在田ヶ谷区玉川寺々力町二の五九四
- 昭和二十四年卒
 - 吉田 外治 大宮市宮町一ノ四〇九九
 - 加藤 精三 目黒区上目黒五ノ二六五八(四八)〇四六二 (内外徳田証券)
 - 藤田 士郎 新宿区西大久保四ノ一七〇
 - 長谷川 勇 不明
- 昭和二十五年卒
 - 宇田川 習二 中川区日本橋坂留町二ノ二二二 (伊藤芳株式会社東京支店)
 - 村田 和 杉並区堀ノ内二ノ二六五(大阪銀行)
 - 奥野 修二 杉並区天沼三ノ七四三(慶大)

- KA 彼女はネットより低いボールをハンドトスなんかするから味方が振られる守屋さんがフラレテ赤面していた。
- K. タテヤさんももう少し変化のある攻めが欲しい。
- 下. 鈴木さんはもう一枚の進歩が望まれる。
- KA 熱心だよくやっているよ守備の時緒、腰が高いね。
- K. マネーゲマがスタッフと云う人も少い鈴木さんは稀に見る偉人だ。
- 下. 松山さんはサーブ守備とも短大随一だね。
- K. 彼女は感がいだね。
- KA 横に弱い線は強いがパスが前衛のアタックコースK行っているのには生かせないところ彼女のプレーを教して欲しい。
- K. 平杯さんは身長がほしいスナブはよいだから打つ位置を考えればよいのだが。
- 下. 安定感がないね守備タイプだよ。
- K. 村井さんは横が弱いパスはい、所之亦パス・イーコイル・トスなんだアタッククレンジングはよく腰が入り感心したよ。
- 下. 後衛のパスとして万点だ。
- KA 小さい体全体を使ってよくやっている。
- K. 五百蔵さんは元気これで任合をやっている。
- KA. ファイトはある亦よく動いているがカンジンな所で釘づけになっている下のボールに弱いKA腰が高いから。
- KA. 土田さんは熱心だが目が浅いのが欠点だサーブの時右の足が曲っているのが一番気になる。
- 下. なんともなくバランスがとれてないようだ。K. 努力型だ。
- 下. 細川さんはハダシでやったが前衛の下まで突込んだ時々はファイトマンだ。
- K. 意をえうと練習不足だ。KA やることが合理的だね。

嘉平健治 武蔵野市境八二九（日本海上火災）
 鈴木直昭 横滨市中区山下町一六一（山一証券）
 福原朝虎 御水本真珠店

二十五年度ハレ一部卒業生

- 1. 柴田雅子 東京都渋谷区幡ヶ谷本町二ノ七三九
- 2. 酒井久栄 東京都杉並区西荻窪一ノ一〇四
- 3. 板倉瑛子 東京都新宿区西落合一ノ二三五(分)四六二六
- 4. 佐藤綾子 東京都目黒区浅丘一四七五(分)四三九二
- 5. 佐藤道子 東京都文京区林町八四(分)五〇二四
- 6. 綱 徳子 東京都十代田区神田大和町七四
- 7. 大瀧愛子 千葉県西房郡鴨川町横瀬六八六電鴨川六二
- 8. 塩美恵美子 東京都目黒区下目黒三ノ六〇五

部	印	編集兼発行部
誌	刷	排
創	設	球
刊	部	部
号		

渋谷東横百貨店印刷部

